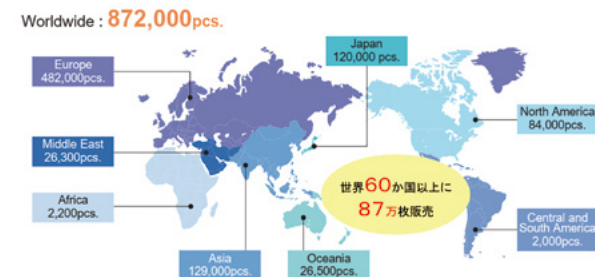


## 世界展開が進むエアロウイング

(2026年7月時点)



## 実現場で実証事業が進捗

省エネ型水処理装置MABRは、日本下水道事業団・横浜市との共同研究にて現地実証試験を進め、社会実装に向けた普及展開に取り組んでいます。本技術によるMABR併用型活性汚泥法は、国土交通省のAB-

Cross実規模実証<sup>※</sup>に採択され今後も積極的に推進していきます。

※AB-Cross実規模実証：国土交通省が上下水道の革新的な技術を実証・普及させるための国家プロジェクト

横浜市の  
栄第二水再生センター

## 提案力強化に向け事業推進課を設立

大型PPP事業の受注に向け、2025年度より事業推進課を設立。大型PPP事業案件に対応すべく情報・知見を集積し、提案力の強化を図っていきます。

## Focus

安定した収益と  
基盤の強化

三機グリーンテックによる  
邦英商興株式会社の株式取得が終了

2025年8月、国内グループ会社の三機グリーンテック株式会社は、同年5月に締結した邦英商興株式会社との株式譲渡契約に基づき、全株式の取得を完了しました。邦英商興株式会社は名古屋市に本社を置き、焼却炉の設置・メンテナンスを主力に、東海地域で50年以上の実績と信頼を築いています。今後拡大が見込まれる廃棄物処理施設の更新需要に対応するため、当社は本M&A案件を中長期的な成長戦略の一環と位置づけており、両社の事業領域におけるシナジー効果を最大限に発揮することで、企業価値のさらなる向上を目指します。



邦英商興・裏川社長(左)と三機グリーンテック・高橋社長(右)

エンジニアリングを  
活かした快適環境の  
構築

稼働を止めず段階的な施工で  
汚泥処理施設を更新

北海道中南部に位置する千歳市スラッジセンターにおいて、当社は下水汚泥処理能力の向上に向けた設備更新工事を担当しました。周辺で進む大規模半導体工場建設に伴う人口増加と排水量増大に対応するものです。更新にあたっては、従来の遠心型汚泥濃縮機からベルト型汚泥濃縮機への切り替えを実施することで、消費電力を従来比約20分の1に低減しつつ、安定した処理性能と汚泥回収率の向上を実現しました。また、施設の稼働を維持したまま段階的に施工(仮設汚泥濃縮機の設置など)を進めることで、処理場機能を止めることなく工事を完遂しました。今後も当社は技術力とマネジメント力を発揮し、地域インフラの持続的な発展に貢献していきます。



新設したベルト型汚泥濃縮機(手前)と既設の遠心型汚泥濃縮機(奥)



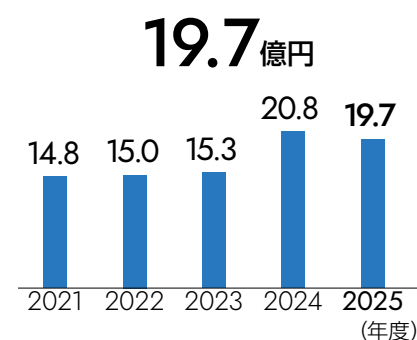
マテリアリティ エンジニアリングを活かした快適環境の構築

## 研究開発

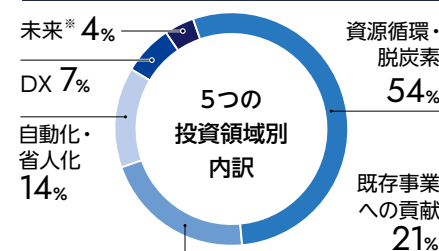
現在、当社は「中期経営計画 2027」のR&D戦略として“人間、テクノロジー、自然の調和による持続可能な未来の創造”を掲げ、「統合的イノベーション」「持続可能性の追求」「人間中心の技術開発」に注力しています。異分野連携によるオープンイノベーションとAI・IoT・ロボティクスを活用し、カーボンニュートラルや循環型社会の実現を目指す中で、人の健康と快適を重視した価値ある研究開発を推進すること、それが当社のR&Dに課せられた「深化と共創」の答えだと考えています。この考え方を具現化する取り組みのひとつが、未来創造プロジェクト「未来へ2050 Eco-Sphere<sup>®</sup>」です。2050年からの視点で社会課題を再定義し、自己治癒・循環型のインフラ実現を目指し、循環型社会と新たな価値創出へとつなげていきます。

執行役員 R&Dセンター長  
植村 聡

試験研究開発費(億円)



投資領域別内訳(2025年度)



※未来：「Eco-Sphere<sup>®</sup>」関連や産官学の共同研究など、未来志向の投資領域を指す

未来へ2050 Eco-Sphere<sup>®</sup>  
2050年に向けて実現する  
4つのバリュー

- Value1 AIエンジニアリングプラットフォーム
- Value2 Eco-Sphere<sup>®</sup> 自己治癒都市システム
- Value3 次世代エネルギー・資源化技術
- Value4 食のサーキュラーエコノミー



「未来へ2050 Eco-Sphere<sup>®</sup> (エコスフィア)」の詳細はこちら



## 研究開発体制

三機工業グループの研究開発体制は、建築設備・機械システム・環境システムの主力3事業に開発部署を置きつつ、各事業部門を横断する形でR&Dセンター(53名)が多様な研究開発を行うハイブリッド体制を取っています。R&Dビジョンに掲げる「人間、テクノロジー、自然の調和による持続可能な未来の創造」を可能にするのは、当社100年の歴史が紡いだ「技術統合力」です。それぞれの事業部門の基盤技術を土台に、5層構造(DNA・基盤技術・統合ソリューション・事業分野・社会価値)となった総合エンジニアリングの技術体系を築き上げ、持続可能な社会へ貢献していきます。

## 三機工業 総合エンジニアリング技術体系



## 知的財産マネジメント

当社は知的財産を「事業価値創造の基盤」と位置付け、R&Dセンターと各部門に配置されているIP担当が共同で管理体制を構築しています。知的財産の「早期権利化と戦略的活用」を主方針に掲げ、2025年度は特許出願40件、登録36件を達成しました。